

## 「表紙作品づくり」

夏休み真っ只中の中央公園の木陰で催された小平市市民活動支援公募事業「すもうあしあくと」。小平市内で今年発足した団体「あくと寺子屋」の第一回目のイベントです。

代表の坪川京子さん（武蔵野美術大卒）は、大好きな小平市でまちづくりを含めた美術ワークショップをしたい！と後輩の学生に呼びかけて活動しています。

「すもうあしあくと」は、東西2チームに分かれ、赤系・青系のインクをそれぞれ足裏につけての土俵入り。相撲をして遊ぶという経験がな



い現代っ子たちは、「ハツケヨイ！ノコッタ!!」、行司の掛け声にも最初は戸惑い、なかなか攻めることができませぬ。でも、二巡目、三巡目となると、勝負熱も上がり、周りの大人も大盛り上がり。

土俵についた足跡からは躍動感あふれる力強さを感じられ、赤系・青系のコントラストが鮮やかなアート作品に仕上がりました。参加した子ども達は汗が光る笑顔で、インクの付いた足を見せ合いながら、お互いの勝負を健闘しあい、自分の「あしあくと」を探していました。

楽しみながら体を使うワークショップ。「すもう」という日本の伝統文化を体験して、子ども達は初めての経験が、充実した時間になったはず。

「あくと寺子屋」の第二回目のイベントは、「未来の小平」を粘土で表現するそうです。子ども達の発想でどんな未来都市に出来上がるか、とても楽しみです。

## あなたの明日をひらく相談室

**Q** 結婚してショックだったことがありました。ある日、仕事が終わって帰宅すると夫の姿が見えないので、シャワーでも浴びようとバスルームに行くと、中から夫の母の声が聞こえました。「いらっしゃってんですか？」と声をかけると、「ゆうちゃんと一緒に入ってるの」という返事。夫が母と一緒に風呂に入っていたのです。マザコンとは聞いていましたが、すごくショックでした。

こんな話、友達にもできないし、まして家族にも言えません。だれに相談していいかわかりません。

離婚したほうがいいでしょうね。私は離婚したいです。離婚するには、どうしたらいいのでしょうか？ 私が夫に話していいのでしょうか？ だれかを介して話したほうがいいのでしょうか？ 慰謝料とかいだけるのでしょうか？ 教えてください。（K.S・25歳）

**A** 突然にありえないことが起こってしまったのです。努力では埋まらない大

きな価値観の差が生まれ、離婚への気持ちが動いているのだと思います。どう前に進んだらよいか悩むのなら、まず二人の出会いから現在までを年表に書きだしてみると少し心が落ち着くでしょう。そのうえで今の気持ちを夫へ話す勇気があれば直接に、自信がなければ第三者を介し伝えようとよいと思います。この第三者とは親や兄弟以外で、K.Sさんが信頼でき、協力者となってくれる人のことです。

離婚時に慰謝料をもらえるかどうかは、これまでの結婚生活の経過で判断されると思います。書いた年表を持っていき弁護士など法律の専門家の意見を聞いてください。一口にマザコンと言っても母親思いなど肯定的に捉える考え方もあるからです。

今は暗闇を手さぐりで歩くように不安だと思いますが、離婚を考えるなら法律の道案内も必要でしょう。K.Sさんに必要な知識と情報を集め、明るい未来への入口を見つけてください。

（カウンセラー 笠原ノリ子）

### 〇困った時、相談できるところ

#### 小平市の女性相談室

☎042-345-2415

電話または面談（要予約）

月曜～土曜：10時～16時

（年末年始、祝日を除く）

小平市学園東町1-19-13

（小平市福祉会館2階）

#### 小平市の子育て相談室

☎042-345-2416

電話または面談（要予約）

月曜～土曜：9時45分～17時30分

（年末年始、祝日を除く）

小平市学園東町1-19-13

（小平市福祉会館2階）

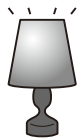
#### 小平警察署生活安全課

☎042-343-0110

月曜～金曜：8時30分～17時15分

（年末年始、祝日を除く）

\* ストーカー・DVなどの緊急時は24時間対応しています。



# 『ひらく』の書棚

小平市男女共同参画センター「ひらく」にある本の紹介です。本は借りることができます。



## 『夫に死んでほしい妻たち』

小林美希 著

(朝日新書)

780円＋税



著者がライフワークとしている女性の雇用や子育ての問題の取材中「夫が死ぬばいいのに」と思う瞬間が一度はあるという女性が多いことに気づく。

2014年6月に70歳の女性が79歳の夫の介護が必要になった時、以前の怒りが引き金になり夫を殺害してしまったという傷害致死事件のほか、70歳代から30歳代までの専業主婦、働く主婦たちが怒りを感じた夫の言動についてのルポルタージュが書かれている。

男性には、是非一読してもらいたい本である。「妻から死んでほしいと思われない」ためのヒントを本書から得て、自らの妻との日常を振り返り、改善できることを改善すれば、幸せな明日を迎えることができそうだ。(K)

## 『今日も珈琲日和』

珈琲屋台「出茶屋」店主

鶴巻麻由子 著

東海教育研究所発行

1600円＋税



注文を受けてから豆を挽き、小金井の井戸水を炭火で沸かし、丁寧ハンド・ドリップでいれてくれる珈琲屋台「出茶屋」。グリーンの車体に赤い屋根のリヤカーを小金井公園や街中で見かけた人も多いのではないだろうか。

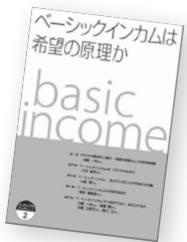
本書には、著者が高校時代から「出茶屋」を始めるまでの話、「出茶屋」に欠かすことのできないリヤカーや火鉢、珈琲豆の話が綴られている。取りわけ、アルバイトや旅先での出来事や人々との出会いから夢へとつながり、10周年を迎える頃には温かなコミュニケーションへと広がっていた…というくだりは、何だか現代のおとぎ話のようで、ほっこりとした気分させてくれる。読めば必ず美味しい珈琲が飲みたくなる一冊。予め傍にご用意を。(S)



## 『ベーシックインカムは希望の原理か』

フエミックス編集・発行

1500円＋税



今年の夏スイスでの国民投票報道があったベーシックインカムは「すべての個人が、無条件で、必要な所得への権利を持ち、人を分断したり序列化しないで、基本的な生活を保障し、人間として尊厳ある生活を営むためのお金を、水や空気と同じように保障する」というものです。

本書の前半にはベーシックインカムに詳しい人たちの疑問や期待が入った考え方が書かれていて、後半には貧困問題、女性問題、社会問題などに関わる人たちのシンポジウムが載っている。

ベーシックインカム自体は、2000年近くの歴史のある政策であり、70年代には欧米でシングル・マザーたちの支持を得た。実現するには乗り越えなければならないことが山のようにある。しかし、オリンピックが行われたブラジルにはベーシックインカム法があり、実践する村があることも書かれている。これこそ「希望」である。(T)



**行って  
みました**

## 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

6月27日に東京国際フォーラムで開催された「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に行ってきました。

## 多様な働き方が女性の活躍を進める！

今年も男女共同参画週間に「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が、東京国際フォーラムで行われました。前厚生労働事務次官、村木厚子さんの基調講演「誰もが活躍できる社会を目指して」では、女性の活躍推進の背景にある少子化が進行して、人口減少社会になった我が国の「せっぱつまった」状況が指摘され、世界各国の女性の就業率を見ると就業率の高い国が合計特殊出生率も高いことから、少子化を救うには女性の活躍の推進＝働く女性を増やすことしかないことが話されました。

「取組事例紹介」は「多様な働き方による女性の活躍推進」というテーマで、女性の離職を防ぐ活動をしている一般社団法人営業部女子課の会代表理事、太田彩子さん、仕事と子育ての両立で企業や地域と連携して働くことを考える活動をするようになった特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ代表、堀田真奈さん、ICTを活用して女性が働き続けられるようにしたいと活動する株式会社コミュニティネット代表取締役、今井房子さんらが自らの活動について話されました。理論でなく実際の体験、活動なので具体的でわかりやすく、多くの人に聞いてほしい話でした。

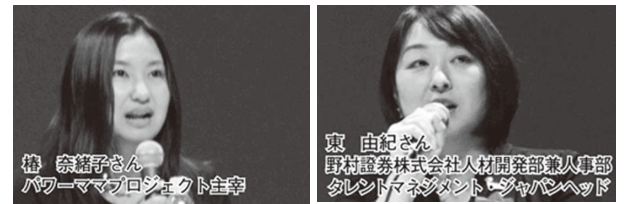


取組事例発表者

パネル・ディスカッションもテーマは、『『多様性とICT』が女性の活

躍を後押しする」で、一般社団法人日本テレワーク協会会長、宇治則孝さん、パワーママプロジェクト主宰、椿奈緒子さん、野村證券(株)人材開発部兼人事部タレントマネジメント・ジャパンヘッド、東由紀さん、サトーホールディングス(株)代表取締役執行役員社長(CEO)、松山一雄さんが話されました。

こちらにも実際の活動に基づく話で、明日に生かせるヒントがたくさんあり、今年はいままでとは違う全国会議になっていました。(北川)



椿 奈緒子さん  
パワーママプロジェクト主宰

東 由紀さん  
野村證券株式会社人材開発部兼人事部  
タレントマネジメント・ジャパンヘッド

### 参加者の感想

社会の多方面で女性が活躍するためには、パートナーである男性が家事、育児、介護等に積極的に参加できる環境の整備を進めていく必要があります。

そのためには、職場、家庭、地域等あらゆる分野の意思決定過程に女性が参画していくことが大事なことである、と思いました。(高橋)

### ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3階)、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

- 小川 町 多加茶、手作りクッキーの店歩、商工会館、JA東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院
- 小川 西町 佐野商店、たましん小平支店、NMCギャラリー、小川ホーム
- 小川 東町 キャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエバンセ
- 学園 西町 ヒューティサロンサンローズ、梁里館、美容室ヘアグラッシュ、本間歯科、ヘアサロンサンライズ、あかね薬局 床屋のけんちゃん、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会
- 学園 東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、リソな銀行小平支店、東京都民銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室Je、とりあん、一橋鍼灸接骨院
- 美 園 町 多摩済生病院、カフェラガラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら
- 仲 町 小平消防署 大沼 町 ガスミュージアム
- 花小金井 風のシンフォニー、公立昭和病院

## 編集後記

● 昨年まではスタッフが少なく、役割分担が大変でしたが、今年は、インタビュしたり、文章を書いたり、できる方が参加されて編集作業がスムーズに行き、よかった。

● 数日前、ある老夫婦を見かけました。女性が乗っている車椅子を男性が後ろから押しながら、和やかに話しかけて、吸い込まれるように病院に入って行かれました。老夫婦、年は重ねて衰えず。(J)

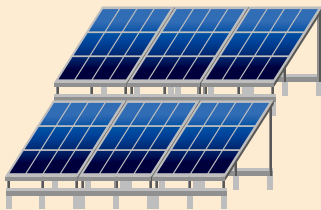
● 特集の取材に応じて下さったみなさん、それぞれに自分の生き方を持ってらして、前向きに生きていらっしやる姿は、眩しく輝いて見えました。私たちもしっかり生きたいと思います。(K)

小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

## いきいきレディ 37



太陽や、風や水、自然でつくるエネルギーが、経済に依存しない社会を作ってくれる。



## いつかは誰かに渡さなくてはいけない生命を守るために

### 馬場 悦子さん（仲町在住）

「子どものころから、祖父や祖母が母や父を育て、両親が私を育てる。その循環、いつかは渡す命を守るために命をつなげていく、と漠然と思ってました。自然食で育ったのも命を守ることに関係あるのかなーと感じていました。」

結婚、子育て、その間に命と環境を守ることを考えはじめた馬場さんは、1986年のチェルノブイリ原発事故を知って衝撃を受けます。「だって、気がついてみたら、日本にだって原発はあるんですものね。もし何かあったら、チェルノブイリと同じ運命じゃないですか？」

そう考えると、食の安全をうたいながら原爆実験をしている地域の野菜を輸入・販売している現実、目先の経済を優先させるための原子力発電所、最終ごみ処分場から出る汚染水、馬場さんを不安にさせることが続いた時、小平市の小学校給食の民間委託への反対運動が起こりました。

それまで小平市の小学校は、栄養士の指導のもと各学校の給食室で市の職員が給食を作っていました。ところが市の教育委員会から民間委託が提案されたのです。食の安全に対して敏感な保護者達から一斉に反対の声が上がり、市内の小学校のPTA

が署名運動や抗議集会を開きました。

「考えてみれば、あれが市民活動に参加した最初だったのかもしれないね。給食の民間委託が取りやめになるまでの数か月間、みんな給食を守るために一丸となって動きました。市民活動の熱さを実感しましたね」

それからの馬場さんは環境問題に本格的に取り組んで、「小平・環境の会」「エコダイラネットワーク」「こだいら菜の花プロジェクト」「こだいらソーラー」のメンバーとして活動。3年前、全国的に注目された、玉川上水と雑木林を突っ切る都道3・2・8号線について問う住民投票にも関わりました。

「今一番力を入れているのは、こだいらソーラーの活動ですね。環境についていろいろやって来て、やっぱり原点はエネルギー。それも目先の経済優先のエネルギー開発ではなく、地産地消のエネルギー。私たちの手が届く温かいお金が地域で回っていく、そういう社会を目指すために、自然エネルギーに期待したいんです」

どんな命も守りたい、そのためには何をしたらいいのか、この素朴な疑問から始まった馬場さんと環境問題との付き合いは、まだまだ終わりそうもありません。

## 小平市男女共同参画センター 最近の動き

### 元気村まつりで見せます登録団体の活動

この4月に管理・運営・利用方法が変わった小平市男女共同参画センターでは、10月23日に開催される「元気村まつり」に登録団体が協力して、その活動を市民のみなさんにお見せすることになっています。

現在、利用登録している団体は16団体ですが、これに小平市男女共同参画推進実行委員会を加えた17団体が、その活動を紹介します展示を参画センターで行うと同時に、

来場された市民のみなさんに団体を紹介するチラシと参画センターのリーフレットを差し上げます。

そして、小平市男女共同参画推進実行委員会は、今年も映画を見る会を午後1時から行います。今年上映されるのは「人生、いろいろ」という日本映画。徳島県上勝町で高齢の女性たちが始めた、木の葉や道ばたの草を料理の〔つまもの〕として販売するビジネスが大成功する実話を映画化したものです。楽しみながら考えさせられる映画です。

あなたも、10月23日、参画センターにいらっしやいませんか？



## ひらく 第39号

平成28年10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課  
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美	北川 紘二	高橋 雅子
安食世津子	酒井 愛	谷原 裕子
阿部 直子	坂岸 真子	野崎 裕子
岡 武左	笹尾かをる	吉岡 博江
岸 和夫	寿福院美屋子	吉村 順介